平成 22 年度　第１回関東ブロッククラブミーティング２０１０　開催報告

日時：平成 22 年 6 月 5 日（土）　13:15～17:00
会場：岸記念体育会館　地下 3 階講堂

【はじめに】

平成 22 年 6 月 5 日（土）岸記念体育会館（東京都渋谷区）にて、第１回関東ブロッククラブミーティング２０１０が開催された。茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・長野県より４４クラブ（創設１年目：19 クラブ、創設 2 年目：25 クラブ）が集まった。参加者は、創設支援クラブ代表者をはじめ、各都県のクラブ育成アドバイザー及び体育協会担当者の協力を得て、計１００名であった。

今回のミーティングは、「クラブがめざすものとは～クラブライフを考える～」をテーマとして、「クラブでやりたいこと、めざしたいこと」を、参加したメンバーが相互に確認するとともに、それを実現するための手法について意見を出し合い、今後クラブが進むべき方向性や地域における役割を、より具体化することを主眼としたものである。

【趣旨説明・事例紹介】

まず、参加者全員がミーティングの目的などを確認するために、伊倉中央企画班員が今回のミーティングの趣旨とグループワークの進め方を説明し、続いて小野里関東ブロック地方企画班員が事例紹介を行った。そして、アイスブレイクをはさみリラックスした後に、ＡからＬの１２グループに分かれ、各都県のクラブ育成アドバイザーや体育協会担当者などが進行役となり、グループワークを開始した。

【グループワーク】

グループワークは、事前に各クラブから提出されたワークシートに記載してある「クラブでやりたいこと、めざしたいこと」を別用紙に転記し、模造紙に貼り付けた後、さらに同内容のものをグルーピングするというものである。

グルーピングされた「クラブでやりたいこと、めざしたいこと」に対し、若干のコメントをさせていただいたので、その一部について述べさせていただく。

一連の作業を通じてグルーピングされた用紙には、それぞれのクラブを取り巻く地域の課題や特徴、資源などを踏まえた取組みが、記載されているものが多かった。言い換えれば、地域の「実情」をしっかり念頭に置きながら、「クラブでやりたいこと、めざしたいこと」を整理しようとする姿勢を、多くのクラブから感じ取ることができたのである。また、地域の「実情」を正確に把握し、理解しているクラブほど、「クラブでやりたいこと、めざ

したいこと」が具体化されているように感じた。

具体的には、「高齢化」や「少子化」といった地域が抱える課題を強く認識するとともに、その課題の克服を図るため、特に「お年寄り」と「こども」をターゲットとして明確に位置付け、「健康づくり」や「仲間づくり」、「生きがいづくり」などをキーワードとした活動を展開しようとするものである。

つまり、地域の課題を、スポーツを通じて克服しようとする取組みは、非営利で公共性の強い総合型地域スポーツクラブが果たすべき「地域における役割」の具体例であり、「クラブでやりたいこと、めざしたいこと」は、そのまま「地域におけるクラブの役割」と言い換えることができると思われる。このように理解することにより、クラブの存在意義は明確になり、またクラブの進むべき方向が描きやすくなるものと思う。

地域において、「クラブの役割」を明確にすることは、地域におけるクラブの認知度や、会員のクラブに対する帰属意識を高めることにつながるだけではなく、その「役割」が、行政活動を補完し得るものであれば、行政の協力も得やすくなるのである。なお、地域住民や関係団体、行政に対し、「クラブの役割」を説明する場合に、「高齢化率」や「介護サービス受給率」、「１人当たりの医療費の額」、「こどもの体力」などを数値として示すとともに、「食べることと歩くことを維持すれば寝たきりは防げる」など、「現状」と「方向性」を具体的に示すことにより、クラブの位置付けや価値は、より明確になるものと思う。ところで、地域の課題や方向性を理解するとともに、具体的な数値を把握する手段として、市町村がまとめている各種の行政計画などに着目していただきたい。「スポーツ振興計画」や「介護保険事業計画」、「老人福祉計画」、「健康増進計画」、「学校別体力テスト結果」などには、効果的なクラブ運営に活用できる「情報」が少なからず記載されているのである。

次に、近隣の「大学との連携」を、「クラブでやりたいこと」として取り上げていたクラブが複数あったのは印象的であった。大学は、近代的な施設だけではなく、専門分野のスタッフや様々なノウハウを持つ、地域の貴重な「資源」である。その「資源」をクラブの取組みに生かすことにより、クラブの可能性が限りなく広がることは想像するに難くない。ぜひ積極的に様々な連携のあり方を探っていただきたい。

しかし、その過程においてぜひ視野に入れていただきたいのは、連携が長続きする理想の姿である「相互に利益を得ることができる関係」を築くことである。クラブは、行政や企業などとの関係において、得てして「利益を受ける」だけで提供しないことが多い。しかし、この関係では、時間の経過とともに相手方がクラブに対して利益を提供し続ける理由付けが難しくなるため、関係は長続きしないものである。

例えば、生活科学系の学部を持つ大学から、スポーツ施設や指導者、さらに健康管理、体力向上に関するノウハウの提供を受けながら、クラブはそのノウハウを会員に提供するプログラムに取り入れた上で、会員全員の健康状態や体力に関するデータを長期に渡り大学に提供するなどの連携のあり方が考えられる。そして、その取組結果をクラブのホーム

ページや広報紙を通じて地域に周知することにより、クラブとともに大学の社会的位置付けは、確実にアップするのである。連携相手にメリットを提供することができる、ギブ＆テイクの関係を常に維持することが、クラブが継続して利益を得ることができる連携のポイントとなるのである。

【おわりに】

最後に、運営上での課題を挙げさせていただく。

まずは、各都県のクラブ育成アドバイザーと体育協会担当者が、グループワークにおける進行役に徹せざるを得なかったことから、それぞれが持つ有益な情報を参加者に提供することができなかったということである。参加者は、他のクラブの取組みやクラブ育成アドバイザーなどのアドバイスを聞くことにより、自分のクラブの取組みを検証することが可能となるが、このことはクラブミーティングが持つ大きな意義のひとつである。このため、クラブ育成アドバイザーなどが持つノウハウを十分に活用できなかったことは、とても残念であった。

また、事前のワークシート作成時に「やりたいこと、めざしたいこと」を掘り下げきれなかったクラブは､当日の発表内容が薄く､そして説得力に欠けるものとなってしまった。時間的な制約がある中で一定の成果を残すことは、大変難しいことであるが、次回以降、同種の企画を行う場合には、クラブ育成アドバイザーなどを積極的に活用するとともに、ワークシート作成の意味を事前に徹底して周知することが、クラブミーティングをより充実させるためのポイントになると思われる。

なお、様々な制約がある中で、参加者全員にクラブミーティングの趣旨の浸透を図り、楽しい企画でミーティングを進めていただいた伊倉中央企画班員には感謝したい。

以　上

（報告：関東ブロック地方企画班員　清水　透）